

「口演1群 放射線看護教育」の報告

Report on “Oral Presentation Session 1. Radiological Nursing Education”

桜井 礼子

Reiko SAKURAI

東京医療保健大学

Tokyo Health Care University

口演1群は、『放射線への正しい知識の修得と不安を払拭するための看護師卒後教育内容の検討』、『頭頸部腫瘍患者の放射線皮膚炎の悪化予防に向けた取り組みの評価 ～看護師のアセスメント能力の向上と観察記録内容の統一化に向けたアプローチして～』、『放射線災害看護の教育内容を導入した「災害看護学」シラバス作成の試み』、『看護職の原子力・放射線教育のためのトレーナーズトレーニング事業を終えて』の4題の報告であった。臨床現場で看護教育、放射線災害看護など、「放射線」の窓口を通して、幅広い視点から教育に関する検討がなされており、放射線看護教育の今後のあり方に対しての示唆が得られた。また発表者は、1題目と3題目は大学教員、2題目は臨床現場の方、最後はアイソトープ協会からの報告であり、本学会のメンバーの多様性を示しているセッションであった。

発表では、看護職の多くは放射線の健康影響等に対する関心、知識が不足しており、患者と同じレベルで放射線に対する不安を抱いている現状を指摘しており、看護基礎教育における体系的かつ実効性のある放射線教育の普及、さらに、臨床現場での看護職に対する研修と看護基礎教育における放射線教育の実現に向けての提案がなされた。折しも、2017年には、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～『学士課程においてコアとなる看護実践能力』の修得を目指した学修目標～」の中に、「放射線」に関して、「放射線の医療利用、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策」の内容が取り入れられた。また、学会として『看護学教育モデル・コア・カリキュラム』の内容を組み込んだモデルシラバス（1単位（15時間）版と2コマ短縮版）を作成し、2019年から日本放射線看護学会のHP上に公開をしている。

今後、放射線看護教育において、日本放射線看護学会がイニシアチブをとっていく必要性を強く感じたセッションであった。